

報道関係各位

三菱地所株式会社
下地島エアポートマネジメント株式会社

沖縄県・下地島空港の旅客ターミナル施設が竣工

～3月30日に「みやこ下地島空港ターミナル」を開業、交流人口拡大や地域活性化を推進～

三菱地所株式会社は、「下地島空港における国際線等旅客施設整備・運営及びプライベート機受入事業」として宮古島市伊良部地区で旅客ターミナル施設「みやこ下地島空港ターミナル」の開発を進めてきましたが、同施設が2019年3月11日に竣工、3月16日に竣工式を執り行いました。

現在、同施設の3月30日開業に向けた準備を同施設の運営会社である下地島エアポートマネジメント株式会社（SAMCO）とともに進めていますが、県が運営する「下地島空港」とSAMCOが運営する「みやこ下地島空港ターミナル」が、国内外の人々に宮古諸島の魅力を伝えるゲートウェイとなり、交流人口の拡大や地域活性化に寄与するよう事業を推進していきます。



みやこ下地島空港ターミナルエントランス



屋根構造材にCLT（直交集成板）を使用したチェックインロビー

■「みやこ下地島空港ターミナル」施設概要

開業日：2019年3月30日

所在地：沖縄県宮古島市伊良部字佐和田1727

敷地面積：32,586 m²

延床面積：12,027 m²

規模・構造：RC造 一部鉄骨造及び木造（CLT）

地下1階地上2階

（旅客エリアは地上1階のみ）

施工者：株式会社國場組・株式会社大米建設共同事業体

CLT工事 山佐木材株式会社

設計：株式会社日建設計

運営：下地島エアポートマネジメント株式会社

主要施設：チェックインカウンター数12箇所、搭乗ゲート3箇所、

到着ロビー 国際線・国内線各1箇所、飲食店2店舗、物販店3店舗（免税店含む）、

レンタカー受付カウンター、レンタカー受け渡し場・洗車場、ATM

■下地島空港における国際線等旅客施設整備・運営及びプライベート機受入事業について

沖縄県が推進する下地島空港および周辺用地の利活用事業の一つとして、沖縄県・下地島空港において旅客

ターミナル施設を整備し、国際線・国内線旅客の取扱い、並びにプライベート機等の受け入れを行うものです。2015年12月、沖縄県へ事業実施についての提案を行い、2017年3月に沖縄県と基本協定を締結しました。旅客ターミナル施設である「みやこ下地島空港ターミナル」工事には、2018年10月に着工、2019年3月11日に竣工。まもなく開業を迎えます。

<事業経緯>

2015年3月	沖縄県の下地島空港及び周辺用地の利活用事業の候補事業者に選定
2015年12月	沖縄県へ実施事業を提案
2017年3月	沖縄県と基本合意書を締結
2017年10月	下地島空港旅客ターミナル施設新築工事に着工
2018年1月	下地島エアポートマネジメント株式会社（SAMCO）を設立
2018年7月	SAMCOに株式会社國場組、双日株式会社が出資
2018年10月	下地島空港旅客ターミナル施設の名称を「みやこ下地島空港ターミナル」に決定 同ターミナルの飲食施設の運営者に沖縄UDS株式会社を選定
2019年2月	ジェットスター・ジャパン 成田=下地島路線開設を公表 香港エクスプレス 香港=下地島路線開設を公表
2019年3月	ジェットスター・ジャパン 関西=下地島路線開設を公表 みやこ下地島空港ターミナル竣工、3月30日開業予定

■本事業および「みやこ下地島空港ターミナル」の特長

①沖縄県・宮古諸島を国際的なリゾートへ

国内屈指のリゾート地として人気の高い宮古諸島に、国内線機能を拡充するとともに国際線機能を整備し、国際的なリゾート地としての更なる成長に貢献。パイロット訓練飛行場としての機能のみならず、一般旅客が利用できる空港として再出発を図りました。

②「空港から、リゾート、はじまる。」をコンセプトとした空間づくり

キーコンセプトを「空港から、リゾート、はじまる。」と定め、空港利用者や航空会社の視点に立った施設づくりに取り組んでいます。豊かな緑や自然の光を取り込み、空港に到着した瞬間から、宮古諸島を離れる航空機へ搭乗する直前まで、リゾート体験を感じてもらえるよう、利用者がくつろげる空間を目指しました。ターミナル正面にレンタカーの乗り出し・返却エリアを整備する等旅行者の動線を意識した設計となっており、観光客にとっての使い勝手の良さを追求しています。



国内・国際線共用搭乗待合室



搭乗待合室に隣接する水盤

③「CLT*1の活用」・「ネット・ゼロ・エネルギービル*2」、2つのエコへの取り組み

本施設では、空港ターミナルとして全国で初めて、CLT（直交集成板）を屋根の構造材に採用。また、同様に空港ターミナルとして全国初となる「ネット・ゼロ・エネルギービル」の取り組みを実施しています。2つのエコへの取り組みで「エコアイランド宮古島」に相応しい施設を目指します。

<CLT（直交集成板）の活用>

本施設では、板の方向が層ごとに直交するように重ねて接着した大判のパネル「CLT」を、空港ターミナルとして全国で初めて、屋根の構造材に採用します。本施設は、1棟あたりのCLT使用量（約1530 m³）で日本一の施設となる予定です（日本CLT協会調べ）。CLTは1995年頃からオーストリアを中心として発展してきた新しい構造材で、今後日本での普及が見込まれます。CLTの利用に対しては、林野庁の平成28年度CLTを活用した建築物等実証事業及び森林・林業再生基盤交付金制度を活用。沖縄県が定める地域材（沖縄県内で流通する県産又は九州産材等）を使用して、地域の森林・林業再生へ貢献します。

<「ネット・ゼロ・エネルギービル (ZEB)」の取り組み>

空港ターミナルビルとして全国初の「ネット・ゼロ・エネルギービル」。国が基準とするビルと比較して、68%一次エネルギー消費を削減する計画です。具体的には深い庇による日射遮蔽、大開口による積極的な自然換気による熱負荷の削減のほか、気化熱空調システムなどを採用し、経済産業省 資源エネルギー庁の「ZEB ロードマップ」においては ZEB Ready ランク、BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）では最高ランクの認定を受けています。ZEB の実現に対しては、経済産業省の ZEB 実証事業制度を活用しています。



※1 CLT…Cross Laminated Timber の略。1995年頃からオーストリアを中心として発展してきた新しい構造材で、板の層を各層で互いに直交するように積層接着した大判パネルのこと。

※2 ネット・ゼロ・エネルギービル (ZEB) …先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物

■「みやこ下地島空港ターミナル」の飲食・物販施設について

豊かな自然に恵まれた宮古諸島は、野菜、果物、肉類、魚介類など数多くの食材の宝庫です。みやこ下地島空港ターミナルでは、旅の始まりから終わりまで食の魅力を伝えられるよう、地元食材を使った飲食を提供するカフェ等をチェックイン棟およびラウンジ棟の両方に設置しました。チェックイン棟のカフェは、飛行機を利用しない時でも気軽に立ち寄っていただけます。なお、これら飲食施設は、宮古島でのホテル運営を通じて地元生産者や地域と繋がり、地元食材を使用したメニュー考案の豊富な実績を持つ沖縄 UDS に運営を委託することで、生産者や島の魅力を伝え、地元の食文化を発信する場として地域活性化への貢献も目指します。飲食でも物販でも「メイド・イン・宮古」を提供します。

<飲食>

・coral port Grab&Go

飛行機を利用しない時でも立ち寄れるチェックイン棟の飲食施設です。サンドイッチ等の軽食、アイス等のデザート、アルコール、ソフトドリンクを提供します。地域食材を使用したメニューを揃えました。店内、テイクアウトどちらにも対応します。

・coral port LOUNGE Café&Bar

・coral port LOUNGE the Kitchen

上記2店とも、国内・国際線共用の搭乗待合室のあるラウンジ棟の飲食施設です。地域食材を使用したそば類、ワンプレートメニュー、丼物等の定食やおつまみ、アルコール、ソフトドリンクを用意しています。

<物販>

・coral port the Shop Landside 店

飛行機を利用しない時でも立ち寄れるチェックイン棟の物販施設です。宮古諸島ならではの土産を取りそろえ、食品、酒類、雑貨を販売します。

・coral port the Shop Airside 店

国内・国際線共用の搭乗待合室のあるラウンジ棟の物販施設です。Landside 店同様、宮古諸島ならではの土産物の他、雑貨、雑誌などを取り扱います。

・coral port Duty Free Shop

国際線搭乗口付近にある免税店です。タバコ・酒類を含む免税品、日本のお土産を取り扱います。



Coral port the Shop Landside 店 店内



ラウンジ棟にある飲食施設 Coral port LOUNGE

■就航路線について

本施設の開業にあわせ、三菱地所や下地島エアポートマネジメントは、沖縄県、宮古島市をはじめ、沖縄観光コンベンションビューローや宮古島観光協会とも連携し、官民一体で誘致活動を行ってきました。また、成田空港の運営会社である成田国際空港株式会社も誘致メンバーに加わり、航空路線の発地側と着地側の両拠点からアプローチするという新たな誘致活動にも取り組み、成田空港に発着するジェットスター成田=下地島路線の就航が決定。関西=下地島路線のほか、香港エクスプレスの香港=下地島路線の就航が決まっています。

■下地島エアポートマネジメント株式会社の概要

商号：下地島エアポートマネジメント株式会社
(英文名称：Shimojishima Airport Management Co., Ltd.)
本店所在地：沖縄県宮古島市伊良部字佐和田 1727 番地
事業目的：空港ビルの管理運営、飲食物・物品の販売 等
資本金：3 億円
株主：三菱地所株式会社、株式会社國場組、双日株式会社
代表者：代表取締役社長 伴野 賢太郎



＜本件に関するお問い合わせ先＞

三菱地所広報部 TEL：03 - 3287 - 5200

下地島エアポートマネジメント TEL：0980 - 78 - 6365

＜画像ダウンロードサイトのご案内＞

本プレスリリースの画像データは、下記リンクよりダウンロード頂けます。

<https://mecgroup.box.com/v/shimoji>

ダウンロード期限：2019/4/30

※画像ダウンロードサイトについては、三菱地所広報部宛にお問い合わせください。(03-3287-5200)

*本資料の配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会、沖縄県政記者クラブ